

車が増えるまでは
ぼくたちが畑を耕したり
木材を運んだりして
いたんだよ。

知ってる？対州馬のおはなし

現在、“日本在来馬”には8種が認定されており(道産子、木曾馬、御崎馬、野間馬、トカラ馬、宮古馬、与那国馬、対州馬)、その多くは絶滅が危惧されています。

中でも対州馬は特に現存頭数が少なく、昭和の初め頃には2,000頭を超えていた総馬数が、2011年現在では30頭前後にまで激減してしまいました。

長崎県の対馬を中心に飼養されてきた対州馬は、その山道の多い地形において、農耕や木材・日用品の運搬に使役され、人々の暮らしには欠かせない存在でした。近年まで、長崎市内の高台へ建築資材を運ぶ姿も見られたほどの活躍ぶりだったのです。

しかし、農業人口の減少・自動車の普及などにより、その数は前述のとおり減少の一途をたどり続けています。

小柄な体格のわりに強靱で、かつ、従順な特性が、これまでの人々の“生活”を支えてきた対州馬たち。これからはその温順さと愛らしさが人々の“こころ”も支えてゆく大きな可能性を秘めているように感じます。

時代は変わっても、変わらずひとのそばに寄り添ってくれる対州馬たち。その貴重な種の保存のため、私たちは取り組みつづけます。

対州馬に会いたい！もっと知りたい！という方は
こちらまでお問合せください

●対州馬振興会事務局
(上県地域活性化センター内)
TEL:0920-84-2311

●目保呂ダム馬事公園
TEL:0920-85-1113
対州馬の保存・飼育・乗馬体験などをおこなっています



ぼくたちを
もっと知ってほしい。
そして
ぼくたちと
もっと接してほしい。

